

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
岡山医療技術専門学校	平成4年4月1日	難波 正義	〒700-0913 岡山県岡山市北区大供3-2-18 (電話) 086-233-8020																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人本山学園	昭和60年3月25日	室山 義正	〒700-0913 岡山県岡山市北区大供3-2-18 (電話) 086-223-8872																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成22年文部科学省 告示 第31号	-																							
学科の目的	理学療法士に必要な専門知識、技術を授け教養の向上を図ることを目的としている。																										
認定年月日	平成28年2月29日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	157単位	122単位	15単位	20単位	0単位	0単位																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
240人	198人	0人	8人	41人	49人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績は科目試験、実習成績および出席状況などの客観的指標を参考に総合的に評価する。成績の評価次の通りとする。 A評価:100～80点、B評価:79点～70点、C評価:69点～60点、D評価:59点以下、E評価:受験せず C評価以上を合格とする。																							
長期休み	■学年始:4月2日 ■夏季:8月16日～9月21日 ■冬季:12月25日～1月6日 ■学年末:3月5日		卒業・進級条件	本校が指定する必修科目(講義・演習・実習)はすべて履修しなければならない。別に定められた進級基準・卒業基準に達した者は進級・卒業と判定される。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、個人面談および保護者を含む3者面談、家庭訪問等		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動、スポーツ大会等 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 医療・介護・福祉施設 求人票の使用方法、ハローワークの利用方法、履歴書・自己PR・志望動機の書き方指導、面接練習、ペン習字 他 ■卒業生数: 37人 ■就職希望者数: 37人 ■就職者数: 37人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (平成29年度卒業生に関する平成30年7月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年7月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士</td> <td>②</td> <td>37人</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>認定トレーナー資格試験</td> <td>③</td> <td>37人</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士	②	37人	34人	認定トレーナー資格試験	③	37人	37人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
理学療法士	②	37人	34人																								
認定トレーナー資格試験	③	37人	37人																								
中途退学の現状	■中途退学者 22名 ■中退率 11.2% 平成29年4月1日時点において、在学者196名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者174名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、学力不振等 ■中退防止・中退者支援のための取組 基礎ゼミの実施、個別での学習フォローアップ、個人面談および保護者を含む3者面談の実施、家庭訪問、学生相談室の活用など、適宜、必要に応じた対策を講じている。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 本山学園奨学金:20万円、30万円、90万円支給、成績優秀者奨学金:23万円もしくは45万円支給、経済支援奨学金:248,500円支給、スポーツ奨励奨学金:5万円支給、キャリアアップ支援奨学金:10万円支給、親族割引奨学金:20万円支給、グループ校進学奨学金:20万円支給 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 評価団体:一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月:2014年3月 評価結果:当該機構の定めたリハビリテーション教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供、実施できる養成施設として認定																										
当該学科のホームページURL	URL:http://motoyama-e.com/okayamaisen/																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

指定養成施設としての基準によりカリキュラムの大枠は決まっているが、独自の授業科目の設定や、授業内容・方法の改善・工夫、教育課程編成委員会における企業等委員の意見、臨床実習指導者連絡会議における実習施設の指導者の意見、全国リハビリテーション学校協会主催教育研究大会・教員研修会をはじめとする関連学会・協会の集会における企業等関係者の発表等を集約・参考にして、運営会議・学科会議・教務委員会での教育課程の編成作業に活かしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

保健・医療・福祉分野で求められる人材について、専門的な知識や技術、医療従事者としての態度についてご意見をいただく。そのために必要な授業科目の開設、内容の修正、指導方法についてご意見をいただく。養成したい人材に見合う、より実践に即した授業内容となるよう外部委員からのご意見をいただいている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
荒尾 賢	一般社団法人 岡山県理学療法士会	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	①
青景 遵之	医療法人 ふたば会	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	③
築山 尚司	関節ファンリテーション学会 地方理事	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	②
難波 正義	岡山医療技術専門学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	学校長
増川 武利	岡山医療技術専門学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	教務主任
十河 正樹	岡山医療技術専門学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	教務副主任
横山 暁大	岡山医療技術専門学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	学科長

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回以上、当該年度の前期および後期の授業終了時期に開催しカリキュラム策定に反映している。

(開催日時)

第1回 平成29年12月21日(木) 19:00～21:00

第2回 平成30年2月15日(木) 19:00～21:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成29年度の教育課程編成委員会では「臨床実習」「カリキュラム」について協議した。指定規則の改定が進められており平成32年より新指定規則が施行予定である。その中で総単位数の増加(101単位)、新たな科目追加、臨床実習単位・内容についての記載があることから、新指定規則案をもとに協議を行った。頂いた意見をもとに新指定規則への変更案、「臨床実習」「カリキュラム」について検討を行っていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

岡山県内を中心にリハビリテーションにおいて実績のある医療機関や介護保健施設を実習施設に選定している。評価実習(2年次)では、社会人・医療人として相応しい人間性・社会性の構築に重点を置くため、まずは医療従事者に必要な礼儀や態度を学ぶ。そして、学内で学んだ知識や技術を臨床の場で直接の指導を受けながら実践する。臨床実習(3年次)では、理学療法士としての社会性・人間性・理学療法技術・理論・思考力などを専門職として、また就業を前提として総合的に学ぶ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

各種実習では、理学療法士として必要な基本的な知識・技術および医療従事者に必要な態度を習得する。年1回、臨床実習指導者連絡会議を開催し、前年度の実習報告、今年度の実習概要や指導要綱、評価基準について説明及び意見交換を行い、学校と実習施設との教育体制について連絡調整を行っている。実習期間中には理学療法学科専任教員が実習施設を訪問し、実習内容の確認・調整を行っている。実習における成果は本校が作成した評価表に従い、実習指導者に採点を依頼している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
評価実習	医療で行う。対象者を3週間担当し、理学療法評価を実施する。担当症例に限らず、経験できる理学療法評価を実施する。	岡山大学病院、岡山第一病院、重井医学研究所附属病院、総合病院津山第一病院、岡山済生会総合病院 総数53施設
臨床実習	医療・福祉施設で行う。対象者を8週間担当し、理学療法評価～治療～再評価を実施する。担当症例に限らず、経験できる理学療法評価もしくは治療を実施する。学生は8週間を1期として、3期間の実習を異なる実習施設で実施する。	岡山大学病院、重井医学研究所附属病院、総合病院津山第一病院、半田中央病院、倉敷中央病院 総数115施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

(1) 本山学園全体として実施する一般研修(指導力の修得・向上のための研修)、(2) 学校長が教員に対して義務づける専門研修、(3) 教員が自己啓発のために受講する自主研修、(4) 学校内で行う通常研修、(5) 初期研修の5種類に分類される。専門研修は、さらに① 専攻分野における実務に関して、リハビリテーション関連分野の学会、協会等が行う研修、② 指導力の修得・向上のために、リハビリテーション関連分野の学会、協会等が行う研修、③ 医療・介護関連施設に派遣して行う実務研修に分類される。いずれも規定に基づき研修が行われている。

教員の履歴、学生による授業評価、授業参観、自己評価、研修実績等を参考にして、学校長が各教員に上記の各研修を適宜組み合わせた研修計画を作成する。教員は研修修了後に研修成果を研修報告会で報告して、その成果を全教員で共有するとともに、PDCAサイクルを回して、自身の教育指導力、実務力の向上・改善に資する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

専門分野や担当講義内容に関連した研修会等として、平成29年度に参加した研修会・学会は次のとおりである。

日本理学療法士協会協会指定研修(9月23日)、第18回関節ファシリテーション学会学術大会(9月17～18日)、第29回兵② 指導力の修得・向上のための研修等

指導力向上のための研修会等として、平成29年度に参加した研修会・学会は次のとおりである。

日本理学療法士協会平成29年度認定理学療法士必須研修会(臨床教育)(6月16～17日)、大学・高校実践 ソリューションセミナー(11月22日)、第30回教育研究大会・教員研修会(8月30日～9月1日)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年度、参加予定の専門分野、担当講義内容に関連する研修会・学会等は次のとおりである。

リハビリテーション・ケア合同研究大会(10月3～4日)、全国老人保健施設大会(10月18～19)、第6回日本運動器理学療法学会学術大会(12月15～16日)、第5回日本予防理学療法学会学術大会(10月20～21日)、第27回日本心身健康科学会学術集会(9月8日)、第32回日本靴医学会学術集会(9月23～24日)

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成30年度、参加を予定している指導力の習得・向上のための研修会・学会等は次のとおりである。

第30回教育研究大会・教員研修会(8月24～25日)、第7回日本理学療法教育学会学術大会(11月3～4日)、第24回岡山県理学療法士学会(6月24日)

また、FD研修、学習会の実施を計画している。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、専攻分野の関係団体の関係者及び医療実務者と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専攻分野における実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする(教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守等)。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・教育理念(建学の精神)・目的・目標、育成人材像が明文化され、学生・保護者等に周知されているか ・学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 等
(2) 学校運営	・学校の管理・運営体制が確立しているかどうか
(3) 教育活動	各学科の教育目標、育成人材像に向け ・カリキュラムの作成などの取り組みをしているか ・実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・要件を備えた教員は確保しているか ・教員の指導力育成の取組がなされているか
(4) 学修成果	・就職率の向上が図れているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に行われているか、また、それら以外を通じた学生支援
(6) 教育環境	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて教育環境が整備・活用されているか ・防火に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学納金は妥当な金額が設定されているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・会計監査が適切に行われているか ・財務情報の公開の体制はできているか
(9) 法令等の遵守	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善を実施し、公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取組みが推進されているか
(11) 国際交流	・国際的視野・感覚を養うための取り組み等を行っているか ・留学生・研修生の受入れ・派遣について行う体制があるか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 自己点検評価の結果をもとに、学校運営に関わる意見を複眼的な視点から広く聴取し、さまざまな事項を中長期的に維持・改善すべき事項を区別した上で、当校の教育の質の向上させるために、具体的な学習環境や教育体制の整備計画を立てて、実行していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐々木 順造	新見公立大学	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	学識有識者
高柴 正悟	岡山大学大学院医歯薬総合研究科	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	学識有識者
妹尾 洋明	公益財団法人慈圭会 慈圭病院	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
熊代 功児	公益社団法人天原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
六車 剛	一般財団法人志清会岡山記念病院	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
松尾 慶子	一般社団法人岡山県歯科衛生士会	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
湯浅 信夫	ユアサ工業株式会社	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ)

URL:<http://motoyama-e.com/okayamaisen/about/release.php>(2018.10月公開予定)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と密接かつ組織的連携体制を整備し、より良い教育を学生に提供することを目的として、企業等の学校関係者に対して、本校が実践する教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	設置者、代表者、建学の精神、教育目的、校長名、所在地、学校の沿革
(2)各学科等の教育	入学定員、成績評価、進級・卒業要件、取得を目指す資格・検定および実績授業(講義・演習・実習)科目等の概要
(3)教職員	教職員名および教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み状況、実習実技等の取組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事・学科行事
(6)学生の生活支援	学生相談室等の学生支援の組織、学生支援の取組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学金・支援制度、過去5か年の学費一覧、経済支援奨学金予算・実績
(8)学校の財務	財務状況(資金収支計算書、貸借対照表)
(9)学校評価	学校関係者評価委員名簿、自己評価および学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、海外研修の状況
(11)その他	岡山医療技術専門学校 学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://motoyama-e.com/okayamaisen/about/release.php>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心とは何か、については古代ギリシャ時代から議論されてきた。歴史を簡単に振り返った後、近世以降の実験心理学を中心に解説していく。心は単に「頭の中で考えられたこと」だけではなく、身体全体と関連付けて広く考えていく。	1前	30	2	○			○			○	
○			倫理学	現代倫理学を中心に身近に目にしたり、耳にしたりする「物」や「心」にまつわる問題から「人間とは何か?」という問題について人文・社会・人間諸科学の立場から多面的に考察していく。	1前	30	2	○			○			○	
○			社会学	「生命」の問題を社会的に考えていく。そして、将来、医療に携わるにあたり国際的視野に立って行動する人間へと成長を促す。	1前	30	2	○			○			○	
○			生物学	生物学の基礎を理解し、日常生活や健康と密接に関連した生物学の領域について知識を深める。	1前	15	1	○			○			○	
○			統計学	統計学の中でも基礎となる分野を重点的に取り扱う。表計算ソフトExcelを使用して、具体的な統計解析に習熟することを目的とする。医学・保健学のための応用的な話題や活用できるデータ解析の手法を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
○			物理学	物理学で見出された事柄は、生活の様々な場面に利用されている。医療分野でも利用されている物理学の基本原理解について知識をつける。	1前	15	1	○			○			○	
○			英語1	医療従事者に必要な医学英語を読む・書く・聞く・話すの4技能を通して習得することを目的とする。基本的な語彙をドリル形式にて学び、医療現場で実際に使われている英語表現を会話形式により、学習する。	1前	30	2	○			○			○	
		○	英語2	医療従事者に必要な医学英語を読む・書く・聞く・話すの4技能を通して習得することを目的とする。英語1をふまえて、より実践的な内容を学習する。	3後	30	2	○			○			○	
○			健康・スポーツ概論	講義と実技を交えて、健康づくりの全般についての基礎知識を体系的に学習すると共に、各種のコンディショニング法を習得する。保健体育での学びを契機に、スポーツ関連の知識・技術の修得および栄養学への関心を高める。	1前	60	2		○		○	○		○	
○			キャリア開発論	理学療法士として働くうえで必要な社会性および人間的スキルを育成する。また、今後の学校生活でキャリアを意識した学修を確立していく方法を構築することを目的とする。	1前	30	2	○			○			○	
○			解剖学	将来、理学療法士に従事する際に必要な解剖学を学ぶ。人体の構造についての基礎的事項から臨床に生きる知識へ生理学的機能を考慮しながら理解する。	1通	90	6	○			○			○	

○		臨床医学概論	臨床現場で遭遇しやすい疾病について概要や理学療法について学ぶ。また、国家試験の臨床医学分野について国家試験対策を実施する。	1 後	30	2	○			○		○		
○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の歴史や体系、各種疾病とその障害、診断・治療について学ぶ。また、国家試験対策を実施する。	1 後	30	2	○			○		○		
	○	臨床歯科医学	歯、口腔、顎等、言語障害と関係ある疾患等について学ぶ。	3 後	30	2	○			○			○	
	○	学習・認知心理学	人間の認知活動（知覚・記憶・思考など）について、機能とメカニズムの理解を深め、それに基づく行動化や内在的情報処理の過程を学習する。	3 後	30	2	○			○			○	
	○	言語学	余りにも広い領域の中から、言語構造を形式主義的側面と機能主義的側面からの掘り下げにより、統語論・意味論・語用論・社会言語学の視点から学習する。	3 後	30	2	○			○			○	
	○	言語発達学	前言語期から乳幼児期・学童期の言語習得過程を中心に、言語と人間及び人間社会の様々な事象との関係を、言語発達の視点から学習する。	3 後	30	2	○			○			○	
	○	音声学	日本語に用いられる音声を観察し、その音声産出の仕組みや特徴を理解するとともに、音声を分析・分類・記述する方途を学習する。	3 後	30	2	○			○			○	
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの入門として、歴史やリハビリテーション関連職種など、理学療法士を取り巻く環境や職業観、リハビリテーションの基本原則などを教授する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		公衆衛生学	集団の疾病予防、健康の保持・増進のために必要な環境を整える基礎と応用の総合的な学問である。健康の概念を明らかにし、生命の延長や健康増進を防げる諸要因を理解する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		理学療法概論	理学療法の歴史・概念・定義を基礎から学ぶ。理学療法の業務内容等を理解するとともに理学療法士の役割および他の関連職との連携についても学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
○		運動療法	基礎科目と運動療法のつながりを理解し、医学的根拠に基づいた運動療法の基礎を学習・習得することを目的とする。	1 後	60	4	○			○			○	
○		運動療法実習	運動療法で学んだ理論・知識を実習を通して技術として習得する。また、理学療法の対象疾患別に対応できる知識と技術を身につける。	2 前	30	1		○		○			○	
○		物理療法	理学療法士が用いる手段としての物理療法について、生理的な作用機序や適応と禁忌、リスク管理を理解する。また実際の物理療法の実施方法および機器操作を理解する。	2 前	30	2	○			○			○	
○		基礎理学療法学実習	基礎的な理学療法手技について実技実習を通じて根拠に基づいて考え、議論し、基礎的内容について体得することを目的とする。	1 後	60	2		○		○			○	

○		理学療法評価法	理学療法で実施される検査・測定に関する知識を深め、それぞれに対する意義・目的を学習する。	2 前 1 後	60	4					○		○			
○		理学療法評価法実習	理学療法で実施される検査・測定に関して実技を通して技術を習得する。また、検査・測定結果の記録についても教授する。	2 通 1 後	90	3				○		○		○		
○		理学療法治療学	理学療法の対象となる整形外科疾患・神経系疾患・内部障害・発達障害など、疾患別の理学療法アプローチについて系統的に学び、根拠に基づいた治療の実践ができるよう教授する。	2 通 1 後	390	26				○		○		○		
○		理学療法治療学実習	理学療法治療学で学んだ知識を臨床で対象者に活用できる総合的技術を身につけるため、実習を通して技術・知識の習得を図る。	2 通	60	2				○		○		○	○	
○		義肢装具学	義肢学、装具学全般の知識の習得を図る。義肢装具の種類・部品・採型・製作内容の理解を深める。	2 前	30	2				○		○			○	
○		臨床実習セミナー	医療人として相応しい人間性・社会性の構築を図る。また、基本的な理学療法評価の実践的能力を身につけることを目的とする。	2 通	60	2				○		○		○		
○		国家試験セミナー	国家試験問題を参考に学習を進める。過去問題の解説や模擬試験を繰り返し実施し、専門基礎的知識から理学療法の専門知識を身につける。	3 通	90	3				○		○		○	○	
○		地域理学療法学	障害者、高齢者が地域社会で生活していくために、理学療法士としてどのような関わり貢献ができるかを考え、地域リハビリテーションの理念と包括的理解を目指す。	2 通	60	4				○		○			○	
○		生活環境論	地域に暮らす高齢者や障害者の生活環境を理解し、この環境の中でQOLやADLの低下をもたらす環境の障壁について学習をすすめ、住環境整備の評価から改善策の実践、指導が行えるように知識・技術を身につける。	2 前	30	2				○		○		○		
○		臨床実習	2・3年次で、医療機関及び介護保健施設等で実習を行う。2年後期は3週1回、3年前後期では1期を8週間とし、3期、計24週間の実習を行う。学内で学んだ理学療法評価・治療の知識・技術を臨床現場で実践し、知識・技術の向上を図る。	2 後 3 通	1035	18						○		○		○
合計				49科目	3345単位時間(157単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
本校が指定する必修科目（講義・演習・実習）をすべて履修しなければならない。また必修科目すべての単位を取得することを卒業要件の原則とする。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
岡山医療技術専門学校	平成4年4月1日	難波 正義	〒700-0913 岡山県岡山市北区大供3-2-18 (電話) 086-233-8020																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人本山学園	昭和60年3月25日	室山 義正	〒700-0913 岡山県岡山市北区大供3-2-18 (電話) 086-223-8872																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
医療	医療専門課程	作業療法学科	平成22年文部科学省 告示 第31号	-																			
学科の目的	作業療法士に必要な専門知識、技術を授け教養の向上を図ることを目的としている。																						
認定年月日	平成28年2月29日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	156単位	120単位	16単位	20単位	0単位	0単位																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
120人	80人	0人	6人	40人	46人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績は科目試験、実習成績および出席状況などの客観的指標を参考に総合的に評価する。成績は科目試験、実習成績および出席状況などの客観的指標を参考に総合的に評価する。成績の評価次の通りとする。 A評価:100～80点、B評価:79点～70点、C評価:69点～60点、D評価:59点以下、E評価:受験せず C評価以上を合格とする。																			
長期休み	■学年始:4月2日 ■夏季:8月16日～9月21日 ■冬季:12月25日～1月6日 ■学年末:3月5日		卒業・進級条件	本校が指定する必修科目(講義・演習・実習)はすべて履修しなければならない。別に定められた進級基準・卒業基準に達した者は進級・卒業と判定される。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、個人面談および保護者を含む3者面談、家庭訪問等		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動、スポーツ大会等 ■サークル活動: 有																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 医療・介護・福祉施設 求人票の使用方法、ハローワークの利用方法、履歴書・自己PR・志望動機の書き方指導、面接練習、ペン習字 他 ■卒業生数: 12 人 ■就職希望者数: 9 人 ■就職者数: 9 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成29年度卒業生に関する平成30年7月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等(平成29年度卒業生に関する平成30年7月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士</td> <td>②</td> <td>12人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>認定トレーナー資格試験</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等	資格・検定名	種	受験者数	合格者数	作業療法士	②	12人	9人	認定トレーナー資格試験	③	12人	12人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
作業療法士	②	12人	9人																				
認定トレーナー資格試験	③	12人	12人																				
中途退学の現状	■中途退学者 7 名 ■中退率 9.6 % 平成29年4月1日時点において、在学者73名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者66名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、学力不振等 ■中退防止・中退者支援のための取組 基礎ゼミの実施、個別での学習フォローアップ、個人面談および保護者を含む3者面談の実施、家庭訪問、学生相談室の活用など、適宜、必要に応じた対策を講じている。																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 本山学園奨学金:20万円、30万円、90万円支給、成績優秀者奨学金:23万円もしくは45万円支給、経済支援奨学金:248,500円支給、スポーツ奨励奨学金:5万円支給、キャリアアップ支援奨学金:10万円支給、親族割引奨学金:20万円支給、グループ校進学奨学金:20万円支給 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 評価団体:一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月:2014年3月 評価結果:当該機構の定めたりハビリテーション教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供、実施できる養成施設として認定																						
当該学科のホームページURL	URL:http://mtoyama-e.com/okayamaisen/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

指定養成施設としての基準によりカリキュラムの大枠は決まっているが、独自の授業科目の設定や、授業内容・方法の改善・工夫、教育課程編成委員会における企業等委員の意見、臨床実習指導者連絡会議における実習施設の指導者の意見、全国リハビリテーション学校協会主催教育研究大会・教員研修会をはじめとする関連学会・協会の集会における企業等関係者の発表等を集約・参考にして、運営会議・学科会議・教務委員会での教育課程の編成作業に活かしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

保健・医療・福祉分野で求められる人材について、専門的な知識や技術、医療従事者としての態度についてご意見をいただく。そのために必要な授業科目の開設、内容の修正、指導方法についてご意見をいただく。養成したい人材に見合う、より実践に即した授業内容となるよう外部委員からのご意見をいただいている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
河本聡志	一般財団法人 倉敷成人病センター	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	③
中島 英彦	倉敷市子ども未来部子育て支援課	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	③
藤岡 晃	一般社団法人 岡山県作業療法士会	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	①
難波 正義	岡山医療技術専門学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	学校長
増川 武利	岡山医療技術専門学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	教務主任
十河 正樹	岡山医療技術専門学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	教務副主任
渡部 悠司	岡山医療技術専門学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	学科長

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回以上、当該年度の前期および後期の授業終了時期に開催しカリキュラム策定に反映している。

(開催日時)

第1回 平成29年12月21日(木) 19:00～21:00

第2回 平成30年2月15日(木) 19:00～21:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成29年度の教育課程編成委員会では「臨床実習」「カリキュラム」について協議した。指定規則の改定が進められており平成32年より新指定規則が施行予定である。その中で総単位数の増加(101単位)、新たな科目追加、臨床実習単位・内容についての記載があることから、新指定規則案をもとに協議を行った。頂いた意見をもとに新指定規則への変更案、「臨床実習」「カリキュラム」について検討を行っていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

岡山県内を中心にリハビリテーションにおいて実績のある医療機関や介護保健施設を実習施設に選定している。評価実習(2年次)では、社会人・医療人として相応しい人間性・社会性の構築に重点を置くため、まずは医療従事者に必要な礼儀や態度を学ぶ。そして、学内で学んだ知識や技術を臨床の場で直接の指導を受けながら実践する。臨床実習(3年次)では、作業療法士としての社会性・人間性・作業療法技術・理論・思考力などを専門職として、また就業を前提として総合的に学ぶ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

各種実習では、作業療法士として必要な基本的な知識・技術および医療従事者に必要な態度を習得する。年1回、臨床実習指導者連絡会議を開催し、前年度の実習報告、今年度の実習概要や指導要綱、評価基準について説明及び意見交換を行い、学校と実習施設との教育体制について連絡調整を行っている。実習期間中には理学療法学科専任教員が実習施設を訪問し、実習内容の確認・調整を行っている。実習における成果は本校が作成した評価表に従い、実習指導者に採点を依頼している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
評価実習	医療で行う。対象者を3週間担当し、作業療法評価を実施する。担当症例に限らず、経験できる作業療法評価を実施する。	錦海リハビリテーション病院、草加病院、総合病院津山第一病院、倉敷記念病院、児島中央病院 総数23施設
臨床実習	医療・福祉施設で行う。対象者を8週間担当し、作業評価～治療～再評価を実施する。担当症例に限らず、経験できる作業療法評価もしくは治療を実施する。学生は8週間を1期として、3期間の実習を異なる実習施設で実施する。	錦海リハビリテーション病院、草加病院、総合病院津山第一病院、山陽病院、岡山県精神科医療センター 総数58施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

(1) 本山学園全体として実施する一般研修(指導力の修得・向上のための研修)、(2) 学校長が教員に対して義務づける専門研修、(3) 教員が自己啓発のために受講する自主研修、(4) 学校内で行う通常研修、(5) 初期研修の5種類に分類される。専門研修は、さらに① 専攻分野における実務に関して、リハビリテーション関連分野の学会、協会等が行う研修、② 指導力の修得・向上のために、リハビリテーション関連分野の学会、協会等が行う研修、③ 医療・介護関連施設に派遣して行う実務研修に分類される。いずれも規定に基づき研修が行われている。

教員の履歴、学生による授業評価、授業参観、自己評価、研修実績等を参考にして、学校長が各教員に上記の各研修を適宜組み合わせた研修計画を作成する。教員は研修修了後に研修成果を研修報告会で報告して、その成果を全教員で共有するとともに、PDCAサイクルを回して、自身の教育指導力、実務力の向上・改善に資する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

専門分野や担当講義内容に関連した研修会等として、平成29年度に参加した研修会・学会は次のとおりである。

第23回広島県作業療法学会(3月4日)、第89回理学療法科学学会・作業療法科学学会学術大会6月3日第51回日本作業療法学会(9月21～23日)、第23回広島県作業療法学会(3月4日)、第36回日本認知症学会学術集会(11月24～26日)。

② 指導力の修得・向上のための研修等

指導力向上のための研修会等として、平成29年度に参加した研修会・学会は次のとおりである。

日本作業療法教育研究、生活行為向上マネジメント(MTDLP)教員向け研修会

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年度、参加予定の専門分野、担当講義内容に関連する研修会・学会等は次のとおりである。

第38回全国デイ・ケア研究大会、第33回日本老年精神医学会学術集会(8月4～5日)、第26回理学療法科学学会国際学術大会(8月30日～9月2日)、第7回認知症学会学術集会(10月12～14日)、地域支援のできるOTの人材育成のための研修会および事前説明(11月10～11日)、認知症ケアマッピング(DCM)法研修会基礎コース(9月27～29日)

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成30年度、参加を予定している指導力の習得・向上のための研修会・学会等は次のとおりである。

日本作業療法士協会教員研修会(8月5日)、第23回日本作業療法教育学術集会(10月13～14日)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、専攻分野の関係団体の関係者及び医療実務者と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専攻分野における実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする(教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守等)。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・教育理念(建学の精神)・目的・目標、育成人材像が明文化され、学生・保護者等に周知されているか ・学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 等
(2) 学校運営	・学校の管理・運営体制が確立しているかどうか
(3) 教育活動	各学科の教育目標、育成人材像に向け ・カリキュラムの作成などの取り組みをしているか ・実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・要件を備えた教員は確保しているか ・教員の指導力育成の取組がなされているか
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に行われているか、また、それら以外を通じての学生支援
(6) 教育環境	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて教育環境が整備・活用されているか ・防火に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学納金は妥当な金額が設定されているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・会計監査が適切に行われているか ・財務情報の公開の体制はできているか
(9) 法令等の遵守	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善を実施し、公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取組みが推進されているか
(11) 国際交流	・国際的視野・感覚を養うための取り組み等を行っているか ・留学生・研修生の受入れ・派遣について行う体制があるか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況			
自己点検評価の結果をもとに、学校運営に関わる意見を複眼的な視点から広く聴取し、さまざまな事項を中長期的に維持・改善すべき事項を区別した上で、当校の教育の質の向上させるために、具体的な学習環境や教育体制の整備計画を立てて、実行していく。			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成30年7月1日現在			
名前	所属	任期	種別
佐々木 順造	新見公立大学	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	学識有識者
高柴 正悟	岡山大学大学院医歯薬総合研究科	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	学識有識者
妹尾 洋明	公益財団法人慈圭会 慈圭病院	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
熊代 功児	公益社団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
六車 剛	一般財団法人志清会岡山記念病院	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
松尾 慶子	一般社団法人岡山県歯科衛生士会	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
湯浅 信夫	ユアサ工業株式会社	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	地域住民
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ)			
URL: http://motoyama-e.com/okayamaisen/about/release.php (2018.10月公開予定)			
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針			
企業等と密接かつ組織的連携体制を整備し、より良い教育を学生に提供することを目的として、企業等の学校関係者に対して、本校が実践する教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。			
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの項目	学校が設定する項目		
(1)学校の概要、目標及び計画	設置者、代表者、建学の精神、教育目的、校長名、所在地、学校の沿革		
(2)各学科等の教育	入学定員、成績評価、進級・卒業要件、取得を目指す資格・検定および実績授業(講義・演習・実習)科目等の概要		
(3)教職員	教職員名および教職員数		
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み状況、実習実技等の取組み状況		
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事・学科行事		
(6)学生の生活支援	学生相談室等の学生支援の組織、学生支援の取組み状況		
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学金・支援制度、過去5か年の学費一覧、経済支援奨学金予算・実績		
(8)学校の財務	財務状況(資金収支計算書、貸借対照表)		
(9)学校評価	学校関係者評価委員名簿、自己評価および学校関係者評価の結果		
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、海外研修の状況		
(11)その他	岡山医療技術専門学校 学則		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)情報提供方法			
URL: http://motoyama-e.com/okayamaisen/about/release.php			

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心とは何かについては古代ギリシャ時代から議論されてきた。歴史を簡単に振り返った後、近世以降の実験心理学を中心に解説していく。心は単に頭の中で考えられたことだけでなく、身体全体と関連付けて広く考えていく。	1前	30	2	○			○			○	
○			倫理学	現代倫理学を中心に身近に目にしたり、耳にしたりする「物」や「心」にまつわる問題から「人間とは何か？」という問題について人文・社会・人間諸科学の立場から多面的に考察していく。	1前	30	2	○			○			○	
○			社会学	「生命」の問題を社会的に考えていく。そして、将来、医療に携わるにあたり国際的視野に立って行動する人間へと成長を促す。	1前	30	2	○			○			○	
○			生物学	生物学の基礎を理解し、日常生活や健康と密接に関連した生物学の領域について知識を深める。	1前	15	1	○			○			○	
○			統計学	統計学の中でも基礎となる分野を重点的に取り扱う。表計算ソフトExcelを使用して、具体的な統計解析に習熟することを目的とする。医学・保健学のための応用的な話題や活用できるデータ解析の手法を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
○			物理学	物理学で見出された事柄は、生活の様々な場面に利用されている。医療分野でも利用されている物理学の基本原則について知識をつける。	1前	15	1	○			○			○	

○		英語 1	医療従事者に必要な医学英語を読む・書く・聞く・話すの4技能を通して習得することを目的とする。基本的な語彙をドリル形式にて学び、医療現場で実際に使われている英語表現を会話形式により、学習する。	1 前	30	2	○			○		○	
	○	英語 2	医療従事者に必要な医学英語を読む・書く・聞く・話すの4技能を通して習得することを目的とする。英語1をふまえて、より実践的な内容を学習する。	3 後	30	2	○			○			○
○		健康・スポーツ概論	講義と実技を交えて、健康づくりの全般についての基礎知識を体系的に学習すると共に、各種のコンディショニング法を習得する。保健体育での学びを契機に、スポーツ関連の知識・技術の修得および栄養学への関心を高める。	1 前	60	2		○		○	○	○	
○		キャリア開発論	理学療法士として働くうえで必要な社会性および人間的スキルを育成する。また、今後の学校生活でキャリアを意識した学修を確立していく方法を構築することを目的とする。	1 前	30	2	○			○		○	
○		解剖学	将来、作業療法士に従事する際に必要な解剖学を学ぶ。人体の構造についての基礎的事項から臨床に生きる知識へ生理学的機能を考慮しながら理解する。	1 通	90	6	○			○			○
○		解剖学実習	将来、作業療法士に従事する際に必要な解剖学を学ぶ。解剖学実習を通して、実際の人体の構造についての基礎的事項や応用的知識を身につける。	1 前	30	1		○		○			○
○		生理学	正常な生命活動のメカニズムを探求し、リハビリテーション医学の基礎となるヒトの行動原理について納得し、リハビリテーション実践のバックグラウンドを身につける。	1 通	90	6	○			○			○
○		人間発達学	障害のある人およびその家族の思いを理解しようとするができるようになることを目標に、胎児期から老年期までの人間の発達について講義する。	1 後	30	2	○			○			○

○			運動学	人間の運動に関する事実を専門的な知識を持って理解すること、国家試験受験を意識すること、臨床場面で活用できる学習にすることを目標に講義を進める。	1 前	30	2	○				○			○		
○			運動学実習	運動学により修得した基礎知識を踏まえ、作業療法療法の基礎となる身体運動のしくみについて理解を深めるために、基本動作の観察・分析の体験 実習を行う。	1 後	30	1		○			○			○		
○			臨床運動学	運動学で学習した知識を踏まえ、正常な基本動作の遂行に必要な心身機能を理解するとともに、疾患や障害による動作障害の特徴を正常と対比させ運動学的に理解する。	1 後	30	2	○				○			○		
○			人体の構造と機能	人体の構造と機能の基礎を学ぶ。また、解剖学、生理学、運動学の国家試験対策を実施する。	1 前	30	2	○				○			○		
○			精神医学	精神医学一般の疾患を学びその対応を知る。疾患の疫学や臨床症状、薬物治療、行動療法など将来、臨床で活用できる知識を身につける。	2 前 1 後	60	4	○				○					○
○			整形外科学	運動器の健康・疾患対策とロコモティブQOLの必要性を認識する。基礎科学の最近の進歩から、解剖・機能を理解して診断・治療への知識整理につとめ、疾病各論の本態を把握する。	2 通	60	2	○				○					○
○			小児科学	成人との相違点と成長・発達にしたがって変化する各年齢における小児の特性を理解する。特に、小児に特有の疾患や、成人との相違に主眼を置き解説する。問題解決能力を養えるようにする。	2 前	30	2	○				○					○
○			内科学	チーム医療に必要な内科学の知識と、その実体験を教授する。チーム医療では、各専門職スタッフが医学知識を共有する必要があり、その最も大切なものは、内科学である。	2 通	60	4	○				○					○

○			神経内科学	神経系の解剖と生理・機能を理解したうえで、各種神経内科疾患を理解する。これにより、障害に対応した治療プログラムをたて、リハビリテーションの評価が行えることを目的とする。	2 後	30	2	○			○			○
○			病理学	病気の原因、発生機序を学び、細胞・組織・臓器等が病気に侵されたときに、どういった変化を示すかを知ること、疾患の理解を深める。	1 後	30	2	○			○			○
○			臨床心理学	できるだけ身近な事柄を取り上げ、臨床心理学の基礎を学び、臨床の現場で応用のきく力を身につけることを目的とする。	1 後	30	2	○			○			○
○			臨床医学概論	臨床現場で遭遇しやすい疾病について概要や理学療法について学ぶ。また、国家試験の臨床医学分野について国家試験対策を実施する。	1 後	30	2	○			○			○
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の歴史や体系、各種疾病とその障害、診断・治療について学ぶ。また、国家試験対策を実施する。	1 後	30	2	○			○			○
		○	臨床歯科医学	歯、口腔、顎等、言語障害と関係ある疾患等について学ぶ。	3 後	30	2	○			○			○
		○	学習・認知心理学	人間の認知活動（知覚・記憶・思考など）について、機能とメカニズムの理解を深め、それに基づく行動化や内在的情報処理の過程を学習する。	3 後	30	2	○			○			○
		○	言語学	余りにも広い領域の中から、言語構造を形式主義的側面と機能主義的側面からの掘り下げにより、統語論・意味論・語用論・社会言語学の視点から学習する。	3 後	30	2	○			○			○

○			作業療法評価法実習	作業療法で実施される検査・測定に関して実技を通して技術を習得する。また、検査・測定結果の記録についても教授する。	2通 1後	60	2	○	○	○								
○			作業療法治療学	作業療法の対象となる神経系疾患・内部障害・整形外科疾患・発達障害など、疾患別の作業療法アプローチについて系統的に学び、根拠に基づいた治療の実践ができるよう教授する。	2通 1後	330	22	○	○	○	○							
○			日常生活活動学	作業療法対象者の日常生活動作を確立することを目的とした、作業療法の関連知識および介入法を学ぶ。	2通	60	4	○	○	○								
○			義肢装具学	義肢学、装具学全般の知識の習得を図る。義肢装具の種類・部品・採型・製作内容の理解を深める。	2後	30	2	○	○									
○			作業療法学演習	評価・臨床実習に向けて、模擬患者を通して実践での考え方やレポートの書き方などを教授する。講義ではグループワークや個人課題を行い、学生間の相互理解および成長を目標とします。	2通	90	3	○	○	○	○							
○			国家試験セミナー	国家試験問題を参考に学習を進める。過去問題の解説や模擬試験を繰り返し実施し、専門基礎的知識から作業療法の専門知識を身につける。	3通	90	3	○	○	○	○							
○			地域マネジメント学	地域社会でより質の高い生活を実現するために、作業療法の視点から企画・立案、実践や運営方法について学ぶ。同時に地域社会の歴史や経済、社会システムなど、地域生活に関連した内容も学ぶ。	2後	30	2	○	○	○								
○			地域作業療法学	障害者、高齢者が地域社会で生活していくために、作業療法士としてどのような関わりや貢献ができるかを考え、地域リハビリテーションの理念と包括的理解を目指す。	2前	30	2	○	○	○								

○		住環境支援学	対象者が望む生活を実現するために必要な移動や食事、入浴などを支援する福祉機器について活用方法を学ぶ。また、福祉住環境コーディネーター 資格取得のために検定対策も実施する。	1 後	30	2	○		○	○								
○		生活環境論	地域に暮らす高齢者や障がい者の生活環境を理解し、この環境の中でQOLやADLの低下をもたらす環境の障壁について学習をすすめ、住環境整備の評価から改善策の実践、指導が行えるように知識・技術を身につける。	2 前	30	2	○		○	○								
○		臨床実習	2・3年次で、医療機関及び介護保健施設等で実習を行う。2年後期は3週1回、3年前後期では1期を8週間とし、3期、計24週間の実習を行う。学内で学んだ理学療法評価・治療の知識・技術を臨床現場で実践し、知識・技術の向上を図る。	2 通 3 後	1035	18			○	○								○
合計					49科目		3315単位時間(156単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
本校が指定する必修科目（講義・演習・実習）をすべて履修しなければならない。また必修科目すべての単位を取得することを卒業要件の原則とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。